

中心市街地活性化の取り組みが、コンパクトなまちづくり大賞の「国土交通大臣賞」を受賞！



本市の中心市街地活性化の取り組みが、コンパクトなまちづくり推進協議会と一般財団法人都市みらい推進機構が主催する「コンパクトなまちづくり大賞（個別事業部門）」で、大賞となる「国土交通大臣賞」を受賞しました。今回は、賞の概要などを紹介します。

◎問い合わせ 商工政策課 ☎23-2983

（受賞を喜ぶ池田市長とMallmallで働く皆さん）

初開催の「コンパクトなまちづくり大賞」

国の事業などを活用し、地域の創意工夫でコンパクトなまちづくりを推進した事業の中から、中心市街地活性化のモデルとなるまちづくりの取り組み事例を表彰する「コンパクトなまちづくり大賞」。

今回が初開催となる同賞は、これまでに2回開催された「コンパクトシティ大賞」と、13回開催された「都市再生整備計画事業（旧まち交）大賞」が統合され、コンパクトなまちづくりの取り組みを、より広い視点から評価するものとなりました。

栄えある受賞式に出席

同賞の受賞式が6月14日、東京で行われ、児玉宏紀総括副市長が出席し、石井啓一国土交通大臣から表彰を受けました。また、全国の優良事例として、本市の中心市街地活性化の取り組みについて発表しました。本市の大賞受賞は、統合前の旧まち交大賞も含めて県内初。九州では、熊本市（平成20年度）、大分県豊後高田市（平成23年度）に続く3例目の快挙です。

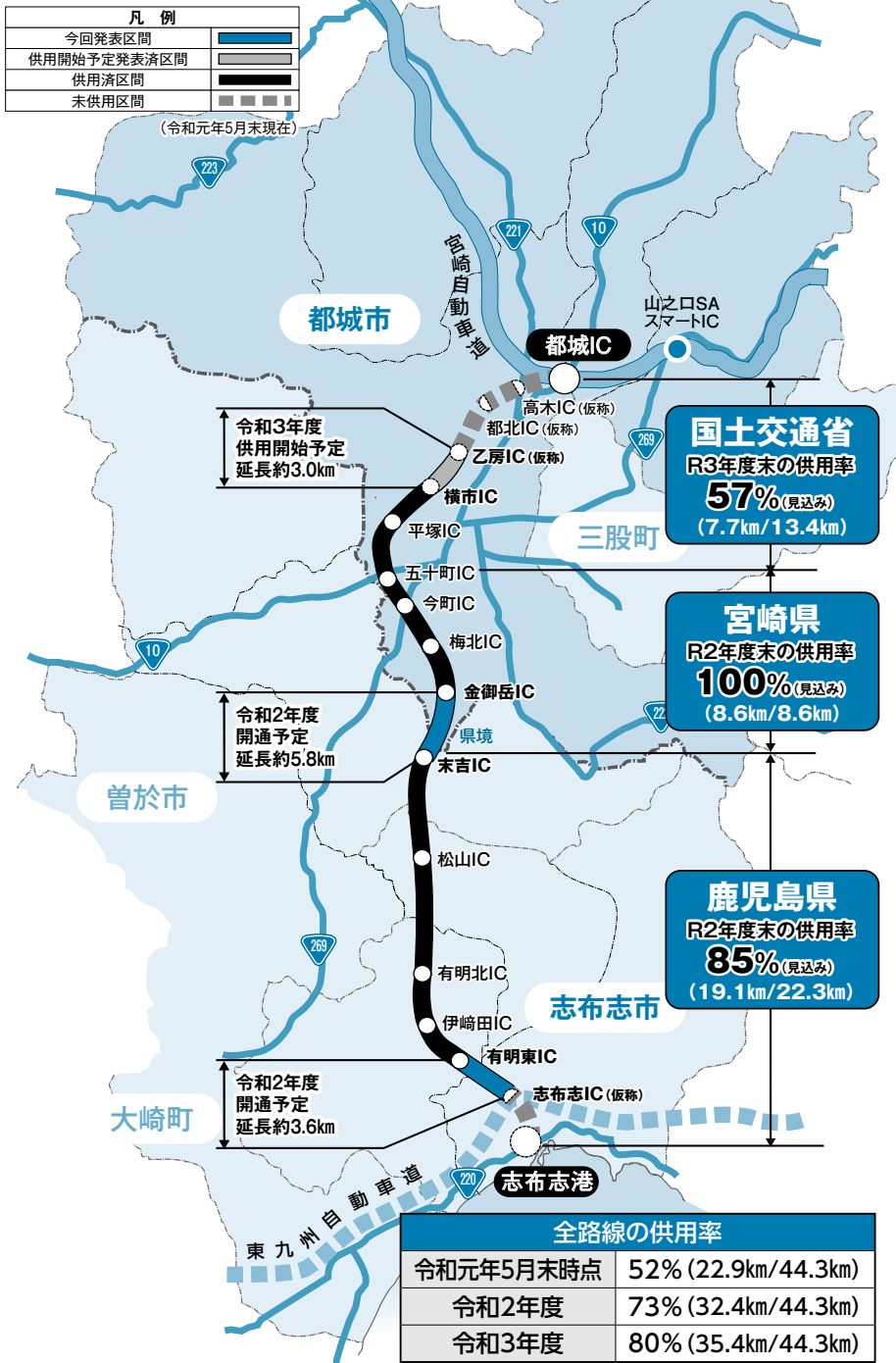
評価のポイント

本市の中心市街地活性化の取り組みについて「都城市では、大型店舗などを活用した図書館などの複合的機能や、まちなか広場整備を都市再生整備計画事業で行うことで、交流人口が大幅に増大し、まちのにぎわいを取り戻すきっかけとなりつつあり、公共施設整備主体ではあるが、個別の施設の整備内容や指定管理者による施設運営に工夫がみられる。空き店舗の減少など、周辺地域へ効果の波及が徐々に始まっており、今後、低未利用地などを活用した住環境の整備などにより、定住化も進んでいくものと期待できる」と高い評価を受けました。



整備が進む都城志布志道路

令和3年度には、 全路線の80%が供用開始！



都城志布志道路は、宮崎自動車道の都城ICから曾於市を経由し、志布志港までをつなぐ延長約44^{キロ}の自動車専用道路で、全線開通に向けて整備が進められています。

今回は、新たに公表された開通区間など整備の進捗状況を紹介します。

◎問い合わせ
 都市計画課 ☎ 23-2762

新たに公表された区間の開通年次

宮崎県・鹿児島県施工区間は、令和2年度に金御岳IC～末吉IC間の約5・8^{キロ}と、有明東IC～志布志IC(仮称)間の約3・6^{キロ}が開通予定です。全路線の供用率は約73%になります。また、国直轄施工区間は、令和3年度に乙房IC(仮称)～横市IC間の約3^{キロ}が開通予定で、全路線の供用率は約80%になります。

気運高める「都城志布志道路整備・活用促進大会」

5月26日、曾於市末吉総合センターで都城志布志道路の早期全線開通と活用の気運を高める「都城志布志道路整備・活用促進大会」が開催されました。曾於市、志布志市、本市を中心に1,100人が参加。「ファンパロー」では、「三唱」では、早期前線開通に向け参加者全員が高らかに拳を突き上げ、気運を高めていました。

